

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名 (フリガナ)		
フリガナ) セイブプリダイガク	フリガナ) サービスケイエイガク	フリガナ) タカセゼミ
西武文理大学	サービス経営学部	高瀬ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) チームサンカクマユゲ 2	フリガナ) オオヤマ ハルカ	4 人	無
チームさんかくまゆげ 2	大山 春佳		

研究テーマ (発表タイトル)

日本の読書離れを救え！！

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私たちは、幼い頃から読書をしなさいと両親や先生などの大人から言われてきた。しかし、現在電車やバス、様々な所での時間のつぶし方は携帯・スマートフォンが主だ。先日電車に乗った際、なぜみんなは本を読まないのだろうかと思いに思った。私は読書が好きのため楽しさを知っているが、なぜ読書をするのかと聞かれると好きだからとしか答えることができない。思い返すと先生や両親から本を読むことは良いことだとは教えられたが、それがどうしてかは教えられなかったように感じる。

幼い頃から教えているにもかかわらず、大人になりきらない私たち学生が、なぜ読書から離れていってしまうのか。読書には発想力が豊かになり、社会性・人間関係能力が高まるなどの利点の他に、読解能力・国語能力が上がることでデータで明らかになっている。そのことを多くの人に知ってもらいたい。そのためには、幼い頃から読書を生活の中で身近なものにする必要があると考えた。そして、読書好きの人が増えることで想像力豊かで日本語を正しく知り、使える人が増えればと思う。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

現在、学生 (小～高校生) の読書状況は、小学生を見ると不読者は昔から大きく変わることはなく、むしろここ最近では減っていることが分かる。しかし、中学生、高校生と進むにつれ、不読者は増え、高校生になると小学生と比べて 10 倍以上も不読者がいる。なぜ高校生になると本を読まなくなってしまうのか。部活動や委員会、娯楽が増えることから読書

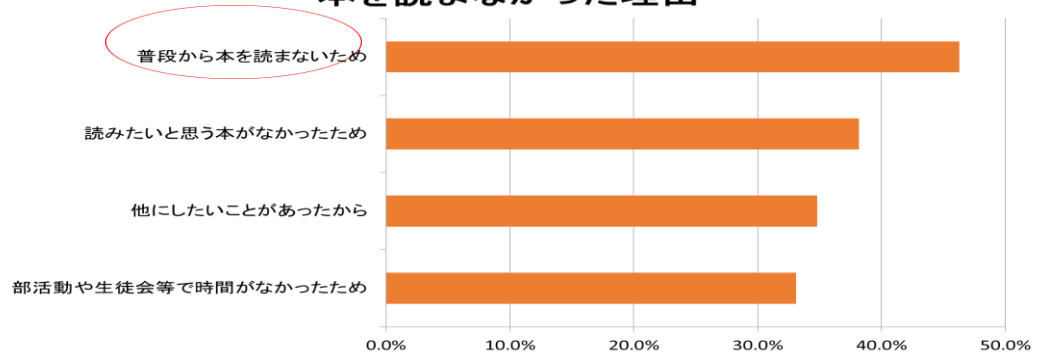


(出典 ; 全国学校図書館協議会 HP より)

をしなくなってしまうのではないかと考えたが、文部科学省委託の調査によるとそれだけではないことが分かった。「時間がない」、「他にしたいことがあるから」という理由も少なくはなかったが、最も多い理由が「普段から本を読まないため」というものだった。

1カ月に本を一冊も読まなかった生徒が 本を読まなかった理由

小学生は学校で図書室を利用する授業や、読書の時間を設けるなど読書が身近にある。しかし、それだけでは習慣になっていないから年を重ねるにつれ、普段から本を読まなくなり、読書から離れていってしまう。これが今の読書離れの現状だと考える。



(出典；株式会社浜銀総合研究所 HP より)

3. 研究テーマの課題

読書から離れた学生が大人になり、親になる。その親たちが絵本の読み聞かせなど子供が本を身近に感じる環境を作ることは簡単ではないように感じる。そこで学校での半強制的なものだけでは、読書は習慣化することが難しいのではないかと私たちは考えた。

そこで、私たちは本に関する専門家であるブックコンシェルジュに話を聞きに行った。業務内容は本の紹介というより、広く複雑になってしまっている売場を案内することが多いそうだが、日常的に本とそれを買っていく人を目にして今の読書についての状況をどう考えているかを伺った。お話しの中で、私達が注目したのが幼い頃から本が身近にあれば自然と読書が好きになるのではないかというものだ。実際その方は実家にたくさんの本があったらしく、その影響で本が好きになり書店で働いているそうだ。

しかし前にも述べた通り本に触れてこなかった人が、親になったからと言っていきなり本を読むようになるとは考えにくい。そもそも子育てや家事に加え、現在は働く女性の数も増えている。そうすると必然的に子供に本を読み聞かせることや、自分の時間に本を読むことは難しくなる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

最近様々な書店で読み聞かせイベントが行われている。私たちはその読み聞かせイベントを、子供たちの読書の習慣化につなげることはできないかと考えた。今でも一部の小学校では、在学中の生徒の親がクラス単位での読み聞かせを実施していることがあるそうだ。しかし、それは課題でも書いた通り半強制的のものに過ぎないように感じる。なぜなら、あくまでも出席しなければならないものであるからだ。そうではなく、親や子が自主的に読み聞かせを聞きに行くということが重要だと考える。

また現在行われている読み聞かせを見てみると、多くの書店が土曜日・日曜日の13時から15時の間に行っている。またこうした読み聞かせイベントは、親子で聞いて絵本に興味を持ってもらうことを狙っているそうだ。しかも、今行っている読み聞かせイベントを聞きにくる親子は、それを目当てに来たわけではなく、来たらちょうどイベントをやっていたから聞いていくという人が多いそうだ。

そこで、読み聞かせを行う時間を昼食前や夕食前に時間をずらし、一時的に子供を預けられるようにするのはどうかと提案する。また、読み聞かせイベントの頻度を増やすことで、頻繁に利用できるようにする。これは買い物や食事の支度などで、忙しくなるその時間に子供を短い時間でも預けられるようにすること、今よりも多くの頻度で本に触れることができるようにすることが目的だ。

しかし、子供を預けられるのであればどうだろう。今は行く手間や時間の都合などでなかなか連れていけない家庭も、買い物のついでや息抜きに足を運ぼうと思うのではないかと考えた。また、空いた時間は書店を見て回る時間になる可能性も考えられる。そこで、親も巻き込んで本に興味を持ってもらえれば、読書が習慣化する大きな効果があるのではないかと考えた。なぜなら、幼い子供は親のやっていることに興味を持ちやすいことに加え、真似をしたがるが多々あるからだ。

この提案を実行するには、人件費が従来よりもかかり、利用する親子が増加することで場所が足りなくなってしまう。人件費の問題はそれを利用する人を書店の入っているショッピングモールで買い物した人に限る。そして、その買い物された額の少しを、読み聞かせイベントの人件費など足りなくなる費用を補うことで解決するであろう。場所の問題は収まり切れなくなってしまうと、先着順や予約制にすることで解消される。また、一時的でも子供を預かるということは、保育士やその資格を持っている人が必要に

なる。大型のショッピングセンターだと書店と託児所が入っている場所がある。それでこの二つが連携して保育士を一時的に書店に来てもらうことができると考える。このように書店だけでなく他店と連携することにより、そのショッピングモール全体の集客にもつながるため、一方的に協力する形ではなくなる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

研究テーマの課題でも書いた通りブックコンシェルジュのいる新宿紀伊国屋本店へ行って、現在の読書についての状況についてうかがってきた。他にもブックコンシェルジュについて、今行われている読み聞かせイベントについて、紀伊国屋で行っているフェアのお話しもしていただいた。また実際に店内を見て回り、客層やフェアの内容も目で確かめた。

幼い子供をもつ母親に話を聞いた。質問内容は、一つ目に読み聞かせイベントで子どもを短時間でも預かってくれたら利用するか。二つ目にそれが金額を設定して買い物をしてくれた人限定のものであったら利用するかというものだ。

一つ目の質問では利用するという意見があった。二つ目の質問には買い物の最中に預けたことが目的だから、買ってから預けるシステムだと意味がないのではないか、値段の設定をされてしまうとその値段の買い物をするか分からないから預けるか分からないという意見もあった。

6. 結果や今後の取り組み

この取り組みは無料であれば利用する人は少なくないことが分かる。しかし買い物と読み聞かせイベントのタイミングが問題視される。また値段設定がないと他店からの費用面での協力が難しくなるが、あまり高額になってしまうと利用者がいなくなってしまう。気軽に利用しようと思えて、なおかつそれぞれの店舗が納得する値段設定をする必要がある。

7. 参考文献

ベネッセ (http://berd.benesse.jp/berd/berd2010/center_report/data27_01.html)

S L A (<http://www.j-sla.or.jp/>)

高校生の読書に関する意識等調査報告書

(http://www.kodomodokusyo.go.jp/happyou/datas_download_data.asp?id=28)

ご協力いただいた方

紀伊国屋新宿本店 ブックコンシェルジュ 松倉 桑子さん

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。